

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 共生社会の中で、初代校長の校訓を受け継ぎ「あかるく・ただしく・たくましく」生きる力を育てる。
- * 生徒一人一人の的確な状況把握と将来を見通した多様なニーズに応える指導・支援の実現
 - 1 教育内容のさらなる充実 ～ 一人一人の生徒の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実 ～
 - 2 安心・安全・きれいな学校づくりの推進
～ 心身ともに健康で安心・安全な学校生活を送るための環境の整備・改善 ～
 - 3 開かれた学校づくりの推進と次世代の育成
～ 関係機関や地域自治会等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成～

2 中期的目標

- 1 生徒一人一人の状況に応じた指導・支援の充実
 - (1) 高等部が知肢併置である本校の普通課程、生活課程に在籍する生徒の現状をふまえた教育課程の編成及び効果的な運用
 - * H25 年度に再編した教育課程について効果検証を行い、課題の改善に向けた具体的な取り組みを行う。
 - * 両課程に在籍する生徒一人一人にとってバランスのとれた指導・支援の充実と交流・共同学習のあり方についての検討を行う。
 - (2) これまでに蓄積されてきた専門性のある授業内容や教材教具の整理、見直しと、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をふまえ、「キャリア教育ステージ表」の新たな観点を取り入れた系統的な授業の工夫、改善
 - * 教科指導、職業指導等の各グループでの授業内容や教材教具等のまとめと見直しを行う。
 - * I C T 機器等を活用した新たな教材教具の開発や活用事例のまとめを行う。
 - (3) 堺支援学校の「特色ある」「みんなで取り組む」キャリア教育の推進
 - * 入学時からの個に応じた丁寧でわかりやすい情報提供、指導支援を展開する。
 - * 卒業後も誰もが地域とつながる進路指導（外部とのつながりをもたない生徒ゼロ）、コース選択や進路選択に柔軟性があり、自己決定できる、納得できる進路指導を実現する。
 - * 「就労支援・キャリア教育強化事業」の成果をふまえ、授業内容、進路学習週間、現場（企業、福祉事業所）実習の充実を図る。
 - * 大阪府の認証を受けた「なにわの伝統野菜」「大阪産（もん）」の栽培、加工を行う。
 - * 校外のアンテナショップに定期的に出店する。
- 2 心身ともに健康で安心・安全な学校づくり
 - (1) 生徒が「自分は変わる」と実感できる生徒指導の実践
 - * 「気持ちの学習をベースにこころを育てる関わりと指導」の充実を図る。
 - * 思春期の生徒への「性に関する指導」や急速に普及したスマホ等の扱いなどの「情報モラル教育」を推進する。
 - (2) 生徒の可能性を引き出し、育てる活動の充実
 - * 部活動、生徒会活動、ボランティア活動等の活性化を図るとともに、生徒の活動のようすや成果等の発信を行う。
 - (3) 学校の危機管理体制の充実
 - * 教職員一人一人の危機管理意識の向上を促し、危機管理体制の強化に取り組む。（3（2）アと関連）
 - * 生徒自身の防災や危機管理に対する意識を高める。
- 3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成
 - (1) 地域と連携した「環境教育」の推進と堺の歴史や文化に親しむ
 - * 「さかいホタルプロジェクト」の協力団体としての「カワニナ」の養殖、「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進と、今年度完成するビオトープを活用した新たな環境教育に取り組む。
 - * 堺市の史跡（古墳）や茶道等について知る。
 - (2) 地域、P T A と連携した防災体制の整備
 - * 地域、P T A と連携し、本校における事業継続計画（B C P）を作成する。
 - (3) 次世代を担う教員の育成
 - * 本校の状況や地域性等をふまえた実践的な堺支援版「初任者研修」「フォローアップ研修」を実施する。
 - (4) 学校からの積極的な情報発信
 - * 児童生徒や支援学校への理解・支援が広がるよう、学校ホームページ等の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○概況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月下旬に保護者、中学部・高等部一部生徒、教職員を対象に実施した。回収率は保護者 65.1%、生徒 80.0%、教職員 98.4%であった。 ・ 保護者を対象としたアンケート内容 <ul style="list-style-type: none"> 「教育活動について」 <ol style="list-style-type: none"> ① 教育内容 ② 学校との連携 ③ 施設・設備、通学バス、給食、医療的ケア、長期休業中の問題について <p>15項目</p> <p>「学校運営に関すること」</p> <p>3項目</p> ・ 生徒を対象としたアンケート内容 <p>9項目</p> ・ 教職員を対象としたアンケート内容 <p>「学校教育計画・教育目標・教育課程・個別の教育支援計画・個別の指導計画等」</p> <p>「特別活動・生徒指導等」「進路指導」「交流教育・人権尊重の教育・道徳教育」</p> <p>「自立活動」「健康の管理と指導・研修」「校務分掌・委員会」「防犯・防災計画・安全確保の体制」「研修・ネットワーク等」「職場環境」「保護者・地域とともに」</p> <p>「学校運営に関して」</p> <p>37項目</p> <p>○結果等</p> <p>[保護者]</p> <p>教育内容に関する9項目は肯定的評価90%以上という結果で、過去の結果を継続している。「通学バスは現状でよい(ニーズにあっている)」「夏休みの学校での取り組みは、適切である」の項目については、前回より10%以上改善されているが、肯定的評価がそれぞれ70.3%、78.0%という結果であった。</p> <p>[生徒]</p> <p>選択肢に「わからない」がなかったため、無回答の項目が多かった。</p> <p>[教職員]</p> <p>課題のある項目が減少し、改善している。しかし、前回から課題に挙がっている項目もあるので、検討が必要である。</p> <p>○課題の検討方法</p> <p>検討課題等の項目については、運営委員会を中心に、改善策の検討を各部署に依頼し、年度内に対応策をまとめる。</p>	<p>第1回(6/29)</p> <p>(1) 学校経営計画</p> <p>① 平成26年度学校経営計画及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ホタルプロジェクト」の当日、観覧者から「カワニナ」はどこで育てているのかという質問があり、支援学校の子どもが育てていると言ったら感心されていた。 ・ 学校と施設との情報共有の仕方を有効にできるようにしなければならないが、必要な情報は一人ひとり違う。 ・ 医ケアの内容が複雑になってきているが、教育と医療の連携は重要である。 ・ 困ったケースがあれば相談してもらいたい(教育と医療の連携) <p>② 平成27年度学校経営計画及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仁徳陵の清掃活動は大々的になってきている。学校が地域の人と一緒にいるのは学校のPRとして良い。地域住民と触れ合う良い機会。 ・ 性の問題は、普段接している中で教えていけないのではないかと。 ・ 子どものうちから異性を意識する教育が必要。 ・ BCプランについては、PTAと学校が連携して進めている。 ・ 専門性の確保について、教材はカテゴリー別に整理するとよい。 <p>(2) 学校教育自己診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育自己診断については、学校への関心度が低いと回収率が低くなる。もっと関心を持ってもらいたい。 <p>第2回(12/14)</p> <p>(1) 平成27年度学校経営計画について(進捗状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい者スポーツが果たす役割が大きい。 ・ ポッチャが広まり、パラリンピックにつながるとうい。 ・ 堺支援が行っている活動をもっとアピールしていけばよい。 ・ 放課後デイサービス等との連携は、個人情報の扱い等の課題整理を行う段階にある。 <p>(2) 学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良くなった部分を見るだけでなく、良くないことについてなくすよう検討することが重要。 ・ 医療的ケアの項目について、範囲を限定したアンケートがあってもいいのではないかと。 ・ 保護者と教員の意識のずれをどう埋めていくか。 <p>第3回(2/12)</p> <p>(1) 平成27年度学校経営計画および評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスで生徒が考えて作ったメニューが、実際の給食に提供される食育の取り組みがよかった。 ・ 就労については、人との挨拶などが大切である。 ・ 「銭塚古墳のどんぐりストラップ」は、商品化を図っていいのではないかと。 <p>(2) 防災への取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・保護者・地域と一緒に「どうすべきか」を考えていく必要がある。 ・ 様々な場合を想定してシミュレーションしていくことが大切である。 ・ 学校の実態に即した訓練を行うことが大事である。自主防災を意識することが大切である。 ・ 基礎的環境整備、合理的配慮を考慮したハード面だけでなく、ソフト面(防災教育など)の整備も求められている。 ・ 自主通学生徒の登下校時の対応も考えておくべきである。 ・ 防災面では、非常電源など協力できることもある。

府立堺支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人一人の状況に応じた指導・支援の充実	<p>(1) 高等部普通課程、生活課程に在籍する生徒の現状をふまえた教育課程の編成と効果的な運用 ア 両課程に在籍する生徒がともに学ぶことでより効果的に学習できる、成長できる指導・支援の充実</p> <p>(2) これまで蓄積されてきた専門性のある授業内容や教材教具の整理と「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」をふまえ、「キャリア教育ステージ表」の新たな観点を取り入れた系統的な授業の工夫、改善 ア 各グループでの教科指導、職業指導等のまとめと見直し イ ICT 機器等を活用した新たな教材教具の開発</p> <p>(3) 堺支援の「特色ある」「みんなで取り組む」キャリア教育の推進 ア 大阪府から認証を受けた「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」の栽培、加工 イ 校外のアンテナショップ(地域の商店街)への定期的な出店 ウ 「就労支援・キャリア教育強化事業」の成果をふまえた、授業内容、進路学習週間、現場(企業、福祉事業所)実習の充実 エ 卒業後も誰もが地域とつながる進路指導(外部とのつながりをもたない生徒ゼロ)、柔軟な進路選択、コース選択、納得できる進路指導の実現</p>	<p>(1) ア 両課程の現状をふまえた学習内容、ねらい、課題等、教育課程検討委員会を中心に、アンケートなども実施しながら検討する</p> <p>(2) ア 各学年の教科ごと、職業指導ごとの授業内容や使用した教材教具等を一覧表にまとめる イ ICT 機器の活用事例をまとめる</p> <p>(3) ア 大阪府から認証を受けた「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」の栽培、加工を行い、堺支援の職業(園芸)の特産品にする イ 職業の学習を中心に、「作品」でなく「製品」づくりを行い、校外のアンテナショップに定期的に出店する ウ 「キャリア教育」に関する S S T、ビジネスマナー講座、現場体験実習などへの生徒の参加機会を広げる エ 高等部入学段階から生徒、保護者と連携し、希望する進路実現のための個に応じた丁寧な情報提供、指導支援を行う。職業コース生徒と他グループの生徒授業交流や共同学習を進める</p>	<p>(1) ア 検討内容をふまえ、両課程のねらい、学習内容、課題等をまとめ、教育課程編成の方向性を示し、改善していく</p> <p>(2) ア 授業内容の一覧表を作成し、次年度に活用できるようにする イ 各教科から 1 事例以上を提出し、教員がだれでも活用できるように共用パソコン内に保存する</p> <p>(3) ア 「田辺大根」は学校給食の全校生徒の食材として、給食室に配達する 他の「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」も、校内だけでなく、校外へも出店し、P R 活動を行う イ 堺東商店街「ガン横マーケットプラス！」へ年 3 回以上の出店を行う ウ 全学年を対象とした S S T やビジネスマナー講座を年 3 回以上実施する 現場体験協力企業紹介プレゼンテーションを活用し、生徒が体験企業の業種選択ができるようにする エ 保護者の肯定的評価 85% 以上 進路担当者、校内実習担当者、職業コース担当者、就労支援コーディネーター等との協議の場を定期的に設定し、本校のキャリア教育の取組みについて、検討する</p>	<p>(1) ア 両課程に共通する「キャリア発達支援」の観点に立ち返り、教育課程の検討に取り組んだ。本校の「キャリア教育プログラムステージ表」の「健康」「感性」「コミュニケーション」「能力」「社会性」の視点を実際の学習計画にリンクさせながら、授業を行った。(△)</p> <p>(2) ア 授業年間計画に主な使用教材の欄を設けて年度末に記入し、次年度に活用できるようにした。自立活動を中心としたコースの過去 3 年間の学習内容の整理と課題の検討を行った。(○) イ 「ICT を活用した教育活動の実践集」を作成し、実践報告会を行った。教員が活用できるように共用パソコン内に保存している。また、情報処理部が中心となり、タブレット型 P C の活用等の校内研修を実施している。(○)</p> <p>(3) ア 大阪府から認証を受けた「なにわの伝統野菜」田辺大根は、生徒が種まきから世話を続けて収穫、冷水で洗ったあと、給食室に届けた。給食日よりでも認証マークをつけて「田辺大根」の紹介をした。「認証獲得おめでとう！」の声も届いた。学習発表会の模擬店や地域住民、近隣の高齢者センター文化祭などでの販売の際には、「なにわの伝統野菜」「大阪産(もん)」ののぼりを立てて P R した。(○) イ 本校のアンテナショップと位置付ける堺東商店街「ガン横マーケットプラス！」へ年 3 回出店した。昨年度 11 月からの出店で、お馴染みさんもできてきたようで「大阪産(もん)」のオーガニックイチゴジャムは、販売 2 時間で完売した。「作品」でなく「製品」にこだわって研究開発を続けた結果、「(本校敷地内) 銭塚古墳のどんぐりストラップ」は、「ガン横」の他、堺市立健康福祉プラザ内、近隣の大型スーパーが入る施設内等の 4 店舗や堺市役所内のイベントで販売していただいた。どんぐり拾いから選別、磨き、ニス塗り、穴あけ、金具加工、判押し、袋詰めまで生徒が分担して一つ一つ丁寧に仕上げた製品で、授産活動支援センターの方にも「授産品」の見本となるものとの評価をいただいた。また、府庁別館での展示も実現した。(◎) ウ 学年、コース別に外部講師を招いて「ビジネスマナー」や「S S T」等の講座を年 14 回実施した。就労支援コーディネーターが作成した現場体験協力企業紹介プレゼンテーションソフトや生徒への希望アンケートなども活用し、生徒の業種選択を考慮した現場体験実習を実施した。保育園や高齢者センター等へ職域が拡大した。(○) エ 保護者の肯定的評価 93% 9 月に本校で「福祉事業所合同説明会」を開催。49 法人 75 事業所のブースを開設し、保護者や他の支援学校教員等約 60 名の参加があった。引き続き次年度 5 月にも実施を予定している。進路担当者、職業コース担当者、校内実習担当者、就労支援コーディネーター等で、キャリア発達支援の視点に立った職業コースの授業内容や進路学習週間の取組み内容の再考を行った。本校版の企業の採用基準を取り入れた評価基準(スキルチェックシート)の作成や日ごろ取り組んでいる「職業」の授業を軸に目標設定や評価の指標を明確にした進路学習週間を実施した。(○)</p>

府立堺支援学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 心身ともに健康で安心・安全な学校づくり</p>	<p>(1) 生徒が「自分は変わる」と実感できる生徒指導の実践</p> <p>ア 「気持ちの学習をベースにこころを育てる関わりと指導」の充実</p> <p>イ 思春期の生徒への「性に関する指導」や急速に普及したスマホ等の扱いなどの「情報モラル教育」の推進</p> <p>(2) 生徒の可能性を引き出し、育てる活動の充実</p> <p>ア 部活動、生徒会活動、ボランティア活動等の活性化を図るとともに、生徒の活動のようすや成果等の発信を行う。</p> <p>(3) 学校の危機管理体制の充実</p> <p>ア 教職員一人一人の危機管理意識の向上を促し、危機管理体制の強化に取り組む(3(2)アと関連)</p> <p>イ 生徒自身の防災や危機管理に対する意識を高める</p>	<p>(1)</p> <p>ア 講師を招いて教員研修を行う。ワークシートを授業などで活用する</p> <p>イ 指導計画を作成し、生徒の状況に応じた「性に関する指導」「情報モラル教育」を実施する</p> <p>(2)</p> <p>ア 部活動、生徒会活動、ボランティア活動、昼休みの活動等で、興味関心のある生徒が集い、楽しく交流できる場を設定する</p> <p>(3)</p> <p>ア 地域、PTAと連携し、本校における事業継続計画(BCP)を作成する</p> <p>イ 生徒向け「防災教育」を実施する</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教員研修を2回以上開催 教員の肯定的評価80%以上</p> <p>イ 指導計画を作成する 学年、グループなどで、生徒の実態に応じた「性に関する指導」「情報モラル教育」を実施する</p> <p>(2)</p> <p>ア 2020 東京パラリンピック公式種目となる「ボッチャ」、校外でのボランティア活動などの新たな取り組みを行い、活動のようすを学校ホームページ等から発信したり、校外で成果発表の機会をもつ</p> <p>(3)</p> <p>ア 地域の防災士の話を聞く 合同訓練(シミュレーション)を行う 年度内に事業継続計画(第1稿)を作成する</p> <p>イ 各学年、グループ等で年1回以上実施する</p>	<p>(1)</p> <p>ア 外部講師を招いて「スマホ」や「性に関する」学習会を3回開催した。肯定評価80%。また、日ごろから課題意識を高めるため、関連する校外での研修内容をまとめて教員や保護者に配付した。(○)</p> <p>イ 各学年、グループで生徒の実態に応じた「性」や「情報」に関する学習を行った。推進にあたっては、保護者の理解協力が不可欠であり、PTA実行委員会とも連携し、保護者向けの「性」や「情報」に関する学習の機会を作った。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 「ボッチャ」: 4月に外部講師を招いて教員向け講習会を実施。近隣の堺市立健康福祉プラザスポーツセンターと連携し、用具を借りたり大会にも出場した。体育の授業に取り入れたり、交流行事で行ったり、ヒューマンライツフォーラムでも発表した。昼休みに友だち同士でボッチャを行うようすもみられ、学校内に浸透してきた様子が伺える。 ボランティア活動: インターハイや堺市スポーツ大会、堺東商店街のイベント、仁徳陵清掃等の校外ボランティアに約40名が参加した。経験を重ねるにつれて、自主的積極的な行動がみられるようになった。 課外スポーツクラブ: 週の実施回数を増やしたり、長期休業中にもクラブ活動を行うなど、バスケット、陸上競技、サッカーなどの大会に向けて活動が活性化した。全国障害者スポーツ大会で銅メダルを獲得した生徒は、府教委へ表敬訪問した。 美術: 美術コンクールにも積極的に応募し、3つのコンクールで4名が受賞した。これらの生徒の活動のようすは、「准校長ブログ」等で発信した。(◎)</p> <p>(3)</p> <p>ア 事業継続プラン(BCP)を作成。地域の防災士に來校いただき、連合自治会長とともに、合同訓練(シミュレーション)を行いながら、本校のBCPについてのご意見をいただいた。今後、実効性のあるブラッシュアップを続ける。(○)</p> <p>イ 各学年やグループで防災訓練の前後等に防災教育を実施した。9月1日は防災の日でもあるので、始業式の准校長講話でプレゼンテーションソフトを用い全校児童生徒に防災の話をした。作成中のBCPの中にも活用しやすいように防災教育の事例を組み入れる。(○)</p>
--	---	--	--	--

府立堺支援学校

<p>3 地域等との連携強化と情報発信、支援学校の将来を創造する人材の育成</p>	<p>(1) 地域と連携した「環境教育」の推進と堺の歴史や文化に親しむ ア 「さかいホタルプロジェクト」の協力団体としての「カワニナ」の養殖、「仁徳陵」周辺の清掃活動等の推進と、今年度完成するビオトープを活用した新たな環境教育に取り組む イ 堺市の史跡（古墳）や茶道等について知る</p> <p>(2) 地域、PTAと連携した防災体制の整備 ア 地域、PTAと連携し、避難、救護、備蓄、通信等の学校体制の整備を行う</p> <p>(3) 次世代を担う教員の育成 ア 日ごろの教育実践の中で感じている身近な課題を仲間とともに解決する場を設ける</p> <p>(4) 学校から積極的に情報を発信し、児童生徒や支援学校への理解・支援の輪を広げる ア 学校ホームページの充実を図る</p>	<p>(1) ア 堺市公園協会と連携し、「ホタル観賞会」開催に向けたホタルの育成や準備に協力する 自治会や近隣の学校、地元NPO等とともに「仁徳陵周辺の清掃活動」に参加する ビオトープを活用し、自然や身近な生物、環境問題への関心を深める イ 平成26年3月、史跡に指定された学校内にある「銭塚古墳」等「百舌鳥古墳群」について学ぶ 茶道体験をする</p> <p>(2) ア 地域、PTAと連携し、本校における事業継続計画（BCP）を作成する（2(3)ア再掲）</p> <p>(3) ア 本校の状況や地域性等をふまえた実践的な堺支援版「初任者研修」「フォローアップ研修」を実施する</p> <p>(4) ア 本校ホームページの中の「堺支援学校ブログ」「准校長ブログ」「大阪支援学校スポーツ大会」（今年度本校が事務局を担当）等を活用し、学校内外のできごとや児童生徒のようす等をわかりやすく発信する</p>	<p>(1) ア 隣接する堺市都市緑化センターで開催される「ホタル観賞会」のために、養殖した「カワニナ」等を提供する 年5回程度、地域の清掃活動を行う 学習の成果を絵画、写真、作文などで発表する イ 学習の成果を校内に掲示したり、学校ホームページに掲載する 来校者にお茶を点てるなど、おもてなし体験をする</p> <p>(2) ア 地域の防災士の話を聞く 合同訓練（シミュレーション）を行う 年度内に事業継続計画（第1稿）を作成する（2(3)ア再掲）</p> <p>(3) ア 年5回程度、研修を実施する 初任者は、必ず研究授業を行う 実際の現場で困った「支援教育関係の用語」を自分たちのことばで解説する用語集を作成し、学校ホームページに掲載する</p> <p>(4) ア 月2回以上、ブログの更新を行う</p>	<p>(1) ア 6月6日から14日まで「ホタル観賞会」が開催された。この時期の堺の風物詩として定着しつつあり、土日は、1時間程度の待ち時間が出るほどの盛況ぶりだった。ホタルの餌となるカワニナの養殖はもちろん、ポスターの背景に生徒作品が使われたり、会場に子どもたちの作品が展示されているなど、本校も協力団体として地域貢献に寄与していると感じられる。 年3回、職業（清掃）の時間に地元NPOが主催する「仁徳陵の清掃活動」に参加するとともに、PTA活動の一環として年2回、地域の自治連合会や近隣の学校等とともに仁徳陵の清掃活動に参加した。（○） イ 5月に台湾の支援学校から生徒、保護者、教員が来校された際、生徒が「抹茶」を点てておもてなしをし、生徒自身が作成したプレゼンテーションソフトを使って「銭塚古墳」の紹介を行った。生徒が自分たちの力でやり遂げたという思いは自信につながった。学校には「ぜに丸」という名前の銭塚古墳のキャラクターがあり、それをモチーフにしたキーホルダー等を生徒が職業の授業で製作し、ガシ横で販売した。校内を巡ると学年やグループの張り紙等に「銭塚（古墳）」の文字が違和感なく登場する。生徒は来客に抵抗なく「抹茶」を点てて出す。学校生活の中に、自然に溶け込んでいる。（○） （2） ア 事業継続プラン（BCP）第1稿を作成。地域の防災士に來校いただき、連合自治会長とともに、合同訓練（シミュレーション）を行いながら、本校のBCPについてのご意見をいただいた。また、「防災」をテーマとした11月のPTAとの懇談会でも、非常食の試食や備蓄倉庫の見学、発電機を使った吸引器の駆動確認とともに、BCPの概略説明を行った。地域やPTAと連携し、さらに内容を充実させていく。（○） （3） ア 年5回、校内初任者研修を実施した。今年度は、初任研にバディ（経験2～3年めの教員）制度を取り入れ、研修報告書にバディからのコメント欄を作り、バディ自身が受けた初任研を振り返る機会を設けたり、ともに研修に参加する機会をもった。 初任者全員が研修授業を行った。授業案の作成から研究協議まで指導教諭、首席、管理職等から具体的実効的な指導助言を行った。 研修の一環として、初任者が支援学校の現場で聞き戸惑った「支援教育関係の用語」を集め、自分のことばで解説する用語集を作成した。ホームページに掲載するとともに、次年度の初任者に渡し、引き継いで作成していく。（○） （4） 児童生徒の活動のようすや学校の取組みを積極的に発信した。「准校長ブログ」では、「大阪府の認証を受けたなにわの伝統野菜・大阪品（もん）」や「ポッチャ」「校外アンテナショップへの出店」「校外でのボランティア活動」「美術コンクールやスポーツ大会での表彰」「ビオトープ等からの四季のたより」「仁徳陵の清掃活動」「銭塚古墳のどんぐりストラップ」等、学校の新たな取組みや地域との連携などのタイムリーな発信を心がけた。ブログの更新は、月平均7回。（◎）</p>
---	--	---	--	--